

関西外国語大学大学院教育課程の教育目標および3つのポリシー

研究科の目的

外国語学研究科は、建学の理念に則り、公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応える専門の教授研究を通して、現代の国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた高度専門職業人を育成することを目的とします。

教育目標

本研究科は、外国語学研究科の目的を受けて、言語と文化に関する教育課程における理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけた人材を育成することを目標にします。

【博士前期課程】

- 専門知識と研究能力
言語と文化の教授研究を通して、専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。
- 豊かな教養
豊かな教養と専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。
- 高度な国際性
高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。
- 社会の要請に応える実践力
複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

【博士後期課程】

- 高度な専門知識と研究能力
言語と文化の教授研究を通して、高度な専門知識と自立して研究を遂行できる能力を養います。
- 豊かな教養
豊かな教養と高度な専門知識をもとに、主体的に問題を発見・探究・解決する能力を養います。

○高度な国際性

高度な言語コミュニケーション能力を基盤として、国際社会で活躍できる能力を養います。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を養います。

修了の認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科は、言語と文化に関する教育課程における理論と実践の学修を通じて、以下に掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を身につけ、所定の期間に所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に「修士」あるいは「博士」の学位を授与します。

【博士前期課程】

○専門知識と研究能力

・専攻分野（英語学、英語教育、言語文化、日本語学・日本語教育、国際共生コミュニケーション）に関する専門知識を身につけている。
・先行研究を正確に理解し、資料等を的確に収集・分析する能力と自立して研究を遂行できる能力を身につけている。

○豊かな教養

・専攻分野を超えて、幅広い教養を身につけている。
・多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

・異文化間の相互理解を図るために必要な言語コミュニケーション能力を身につけている。
・多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

・複雑な現代社会の要請に応えうる、専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

【博士後期課程】

○高度な専門知識と研究能力

専攻分野（英語学、英語教育、言語学、言語文化、日本語学、文化人類学、比較文化学）の研究を通して、高度な専門知識、先行研究に対する深い理解、関連する資料等の的確な収集・分析力、および論理的・批判的な思考力を併せ持ち、自立して研究する能力を身につけている。

○豊かな教養

専攻分野を超えた高度かつ幅広い教養と多様な事象に関して主体的に問題を発見・探究・解決する能力を身につけている。

○高度な国際性

異文化間の相互理解を図るための高度な言語コミュニケーション能力と多様なグローバル社会において活躍できる能力を身につけている。

○社会の要請に応える実践力

複雑な現代社会の要請に応えうる、高度な専門知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識・研究能力、教養、国際性、実践力を修得させるべく、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

【博士前期課程】

（教育課程編成の考え方）

教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」）を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

（学修内容および学修方法）

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、専攻分野における幅広い専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と専門知識をもとに学位論文作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

（学修成果の評価方法）

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

【博士後期課程】

（教育課程編成の考え方）

教育目標を達成するために必要な授業科目（「専門科目」「専門演習科目」「自由科目」）

を置くとともに、学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成します。

(学修内容および学修方法)

○学修内容

専門科目は、高度な言語運用能力を育成するとともに、専攻分野における高度な専門分野の知識を修得する内容になっています。

専門演習科目は、高度な言語運用能力と専門知識をもとに学位論文作成のための論理的・批判的な思考力、論文作成技法などを修得する内容になっています。

自由科目は、大学教員等として必要な高等教育に関する知識を修得する内容になっています。

○学修方法

授業形式は、問題発見・解決型の学修方法を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせ、講義・演習となっています。また、学生の研究課題や論文作成については、主研究指導教員と副研究指導教員が指導にあたります。

(学修成果の評価方法)

学修成果は履修科目・学位論文により評価します。

・履修科目はシラバスに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）により評価します。

・学位論文は本研究科「学位論文の評価基準」により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科は、言語と文化に関する学修を通して、教育目標に定める人材育成方針に沿って、適切な入学選抜方法により、多様な学生を受け入れます。

(入学選抜方法)

○選抜は、一般入学試験、推薦入学試験（海外提携校推薦も含む）により、入学時期に応じて年2回行います。

○選抜に関しては、原則として外国語にかかる学力をはじめ、専攻分野に関する論述問題についての筆記試験を課すとともに、研究意欲・能力・適性などについての口述試験を課します。

(求める人材像)

○言語運用能力を基盤として、言語・文化の諸事象に関する知識の深化、実践力の修得をめざす者を求めます。（博士前期課程）

○高度な言語運用能力を基盤として、言語・文化に関する理論などの探究をめざす者を求めます。（博士後期課程）

制定日：2020年2月14日

改定日：2021年4月1日

2022年7月14日